

南 飛 驒 防 災 結 塾 瓦 版



下呂市防災士会基本理念

- 1、我々は、自助・共助協働を自ら実践し、地域の減災と防災力向上に貢献する。
- 1、我々は、防災士として、常に防災知識と技術の習得に研鑽する。
- 1、我々は、下呂市の防災文化の構築に努め、後世に継承する。

★ 下呂市防災士会全体会議 ★ (平成28年9月14日19時～於:ふれあい会館)

・中島会長挨拶

下呂市防災士会発足3年目である。防災活動には様々な課題が山積であるが地道に解決していきたい。自身が防災士になったきっかけの一因に、今まで災害に遭遇する事が無かったが、このまま人生を全うするとは考えられない…との想いがあったからです。

先の総合防災訓練では、一時避難所へ来る事が訓練と考える住民が数多くあったが、地震の発生時では、避難行動に移るまでの備えが重要と考え啓発活動を強化継続したく考えます。またそれぞれの得意分野や趣味を活かした防災活動に取り組まいたい。

・災害有識者講話2題

山之口区の青木克裕氏から「地域自主防災について」として、H26.8.17の飛驒豪雨時に行政からの情報を待たず自主的に災害対策本部を立ち上げて、豪雨による防災体制を整えた経緯や経過などの講話を聞いて、自地区で万一の風水害発生時などの参考となった。

また、熊本地震の被災地へ岐阜県の派遣団員としておもむき、被災者へ健康管理などに活動された保健師森本千恵氏より、地震被災者の心身ともに疲れ果てられた過酷な状況の報告に耳を傾けた。

講話に対し質疑を終え、出席者全員で車座になり開放的な雰囲気での情報交換を行った。

9月4日の総合防災訓練でのそれぞれの工夫や、問題点を話し合いさまざまな課題を共有した。

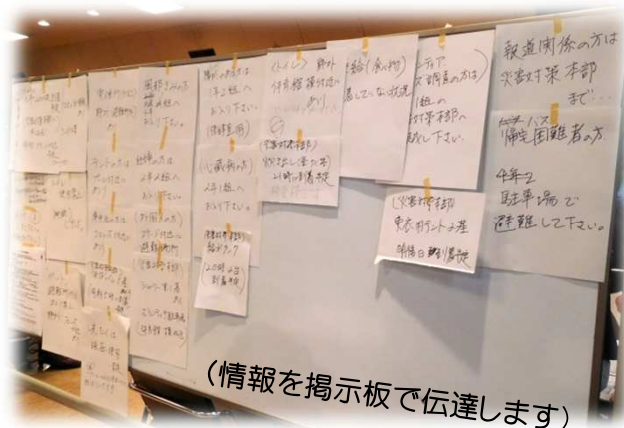
また、所属する自治会で防災士としての活動状況等などについて発表や意見交換を行った。自治会により防災士が防災組織の重責の位置に居る地区がある一方で、一部ではあるが防災の組織外に置かれている例もあったことで、自治会に対して防災士の専門性と存在意義を働きかけるべきだ。防災組織内の適切な位置付をになえるように、我々防災士もその力量の向上に研鑽することを惜しまないようにすべきだ…。など等活発な情報交換の場となりました。



★ 避難所運営(HUG)指導者養成講座 ★ (平成28年10月8日 於:下呂市民会館)

清流の国ぎふ防災・減災センターの主催で行われ県内各地から60名余が受講し、市内からは防災士はもとより女性消防団員、市職員に加え服部市長も参加し33名が受講した。運営スタッフは西田重成コーディネイターを始め、岐阜大学準教授、県防災担当、減災未来塾生などで構成され進行された。

西田講師の軽妙な、「避難所(H)、運営(U)、ゲーム(G)」の説明が行われたあと、図上により震度6弱～6強の発災後4時間後の想定でゲームを開始した。市内の受講者の中には、HUGを始めて経験する人も少なくなく、次々と押し寄せるペットを連れったり、要配慮者の避難者などに困惑し気を抜く間もなく矢継ぎ早に起こる様々な難問題に必死に対応していました。



★ 下原小学校 高学年DIG ★ (平成28年10月6日 於:下原小学校体育館)

県教育委員会より学校安全指導者(防災)派遣事業を本会が受諾し、南支部の金子恒紀、河尻正敏、杉山宣仁防災士、市外から防災士なかつがわ会の黒田ところさんとで、4、5、6年生42名に地震を想定した災害図上訓練(DIG)を行いました。防災士の任務紹介に始まり、災害を風水害と地震に分けて説明したあと、金山地域の断層地図や衛星写真で往古の地震跡と思われる所を確認し合いました。その後、児童達と通学路内で地震が起きたらアブナイと思われる所を探し出して、どうしてアブナイと思うかを発表し合って、危険個所の情報を児童と先生方とで共有しました。

子供達全員が傍観者になる事無く住宅地図に懸命に書き入れる姿に指導者全員が感動し、貴重な経験となりました。後日全児童から手紙が届き、防災士の話をよく理解しているようでした。



防災士のみなさんへ

昨日は、災害の危ないところなどを教えていただきありがとうございます。私が印象に残っていることが2つあって1つ目は、地図に書きこんだことです。地図に書きこんで、登校や下校のときにどこが危ないのか改めて分かりました。あと、広いところが一番大丈夫ということが分かりました。もし、じしんがきたら非難場所や広いところにいたいです。2つ目は、映像で見た、

耐震工事をしているしていないの映像で私はすごくおどろきました。耐震工事をしていない家は、10秒もたないうちにこわれてしまっていたので耐震工事をしなくてはいけないなと思いました。もう一つの映像で、固定していないものがぐしんで動いて危ないと思いました。なので、私も、牛豚が動かないように1固定してもらおうと思いました。

6年 澤田 奈奈

★ 福祉ふれあいフェスタ with ハートビート下呂2016出展 ★

9月22日交流会館において行われ、悪天候にも関わらず例年になく多数の人出で賑わいました。木造住宅耐震モデル・下呂市周辺の断層地図・熊本地震被災写真・災害映像・災害時のトイレ案・啓蒙パンフなどの展示を行いました。本会ブースにも例年になく多数の来訪者があり、なかでも災害時のトイレ提案に関心が多く集まりました。自宅避難で断水時のトイレ案や段ボール便器、油缶便器などに「うーん！なるほど、こりゃええなあー」とほとんどの来訪者が納得されていました。「飲まず食わずは24時間なんとか我慢出来ても、排泄の我慢は24時間できません」とさらに説明をくわえて、まさかの断水や災害発生時のために覚えておかれる事を勧めました。



(災害時のトイレ提案は、ご婦人層に大人気！)

(ダンボール便器体験中の防災士下呂市長)

★ 第15回減災楽座(下呂会場) ★

(平成28年10月31日 於:下呂交流会館)

減災楽座は「清流の国ぎふ 防災・減災センター」が主催し、年に飛騨、東濃、中濃、西濃で各1回と岐阜大学サテライトキャンパス(岐阜駅前)で8回行われるもので、専門家と一般参加者が防災について語り合い知識を得たり、参加者同士の顔の見える情報交換と交流の場で気軽に誰でも参加出来ます。

会場のリクススタジオには43名が集結し、下呂市からは発表者を含めて24名の参加がありました。中島良孝防災士会長による『萩原の地形の特徴と災害発生時の情報伝達』と題し、昭和59年に編纂された萩原文庫第6集を参考にして、萩原の地形の生い立ち、河岸段丘や阿寺断層に由来する破砕帯の分布説明がなされた。また、災害発生時の通信手段として簡易デジタル無線機やアマチュア無線を活用し移動しながら災害対策本部の機能を発揮できるとして発表された。

加藤英之金山町谷合区自主防災会長が『楽しみながら学ぶ防災』としてH25～H28年までの防災活動の事例を紹介しました。H25年は設立、資機材の整備、家具の転倒防止などの指導、家庭用消火器の設置。H26年は防災ファイルを各戸に配り後に配布する防災情報紙の保存、住民による防災資機材の寄付や貸し出しの募集、救急救命講習の開催に多数の応募者、防災台帳の整備、区内2本の谷に警戒水位表示。H27年は地区内2つの谷水の水質検査(飲用可)、防災人形作成、三角巾応急手当講習会、夜間の避難訓練実施。H28年はロケットストーブを13基作成し土砂訓練の炊き出しに使い、参加者全員で試食して喜ばれる。(各年度とも活動内容抜粋)

楽座を進行した栗田コーディネーターから、「スゴイですねえ。小集落で出来たかも知れないが、僅かの時間でここまで進化するとは……」と称賛の言葉がありました。また、高齢夫婦世帯で寝たきりの夫が犠牲になった水害事例で、原因と防止について考えたワークショップでは参加者全員が持論を発言した。



(中島会長)



(加藤英之氏)



(栗田岐阜県コーディネーターを囲んで)

おらんとこの自主防災 (2016飛騨豪雨 山之口区レポート)

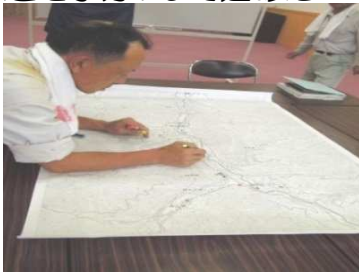
平成26年8月17日 お盆明けの豪雨災害

訓練が生かされた、最小限の被害

台風の襲来に続きお盆前後から長雨が降り続き8月17日には、下呂市内でも馬瀬地域を中心に豪雨による災害が多数発生しました。萩原町山之口地区では、土砂が道路に流れ出す被害が発生しましたが、日頃の訓練の成果もあって円滑な対応を行い、大きな被害に発展しませんでした。今後の参考にして頂けたら思い、この日の様子を紹介します。

強い雨が降っているため、朝から区役員による巡視を行っていた。土砂流出災害が発生して、区長判断で山之口公民館に災害対策本部を設置。災害現場付近の2世帯を知人宅へ避難させると共に、キャンプ場に居た愛西市のボーイスカウト30余名に、位山自然の家に避難指示を行い誘導した。

巡視班を編成し区内の点検を行うとともに、消防団へも出動を要請し水が溢れている個所には土のうを積み上げる。巡視の結果は対策本部に設けた区内地図に表示を行い、その状況や対策を時系列にボードに書き出して区役員、防災隊員などすべてに情報の共有を図り、同時に炊き出しの準備を進め食料の確保などを手分けして進めた。



(災害状況・対応策を区内地図に記入)



(山之口区災害対策本部設置状況)



(中央地区の土砂崩壊現場状況)

市道山之口中央線交通止め。
写真右下側に民家が有り、住民に避難勧告を行い無事に避難させる。
市役所へ土砂災害発生を携帯電話で画像の送信と共に、対策本部設置を報告する。

災害発生時に防災組織が機能して、山之口区内で完結する訓練通りの対応が出来ました。防災訓練だけでなく、それに向けた打ち合わせや図上訓練など災害対応に関する日頃の積み重ねが、まさかの災害発生の場合いかに重要かを痛感した次第です。
自助・近助・互助が機能した対応でした。

(編集後記) 本誌の取材をして、市外の防災士と情報交換での話。

自分が所属する自主防災会は「自治会と協議をして防災活動をしている」と話すと「うやまい!」と云われる。その防災士が「地域で自主防災云々……」と話したら、なぜか自治会から干されてしまったと嘆かれる。自治会の実力者が防災に関心が薄く……自地区での防災活動に行き詰まっている……との由。

このような防災に係わる方々の、嘆き・悩み・苦しみ・喜び・その他……の情報をお寄せ下さい。
防災事業に係わる者同士が、様々な情報を共有して皆で考える事で、連帯感が生まれるといひかなと考えます。

E-mail・tuneki-jh2oqm@seiryu.ne.jp ☎090-2578-1601 LINE可 FB金子恒紀 広報担当 金子恒紀

☆ 本誌は下呂市ホームページにても御覧になれます。

下呂市防災士会

検索

